

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100198		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校・湯村		
所在地	甲府市 湯村 3-11-10		
自己評価作成日	H27年 9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人 ひかりの里は多様な施設サービスがあり、各事業所が連携してご利用者様とご家族が、安心して笑顔で過ごせるように、できるかぎりの支援を展開してゆきます。また当事業所はひかりの里、各部所と連携し、一度お付き合ひさせていただいたご利用者様と、最後まで支援していこうと努めております。またレクリエーションはギターを生演奏、今後は「優しい事業所」をテーマに取り組んでゆきたいと考えております。

ホテルの建物を改装した施設で、同じ建物内に法人が運営する児童養護施設や特別養護老人ホームがある。当事業所は3階で、ショートシティも隣接している。防災、研修、行事、利用者同志の交流など建物内の事業所間の協力体制が出来ている。また、比較的近くに法人が運営するグループホームがあり、他市町村にもクリニックや療養型病床がある。法人全体の研修や医療の連携・、リハビリ・看取りなど総合的な介護が可能な安心出来る施設である。職員の動きや話し方は温かく理念に沿った支援の中で利用者は、表情も穏やかに満ちて日々の生活の落ち着きが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○			

自己評価および外部評価結果

事業所名(グループホーム めだかの学校・湯村) [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心と笑顔、一日を大切に」という理念があり、朝礼後の報告で口に出して伝えるようにしております。	3事業所合同の朝礼時は、本日のスケジュールを確認する。その後管理者が、「理念」に沿った支援の1日であるよう口頭で説明・指導する。また、理念の他に「ひかりの里5基本姿勢」があり、朝礼後は職員全員で唱和して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	通りむかひの商店や、通行人は挨拶や、会釈するなどして、交流につとめております。	自治会には、特別養護老人ホームが加入している。湯村まつりの神輿が出た折は通り沿いで手を振り応援したり、地域のコンビニに買い物に行く等の交流に努めているが、温泉街である為近隣との日常的な交流は少ない。	地域性や建物の構造上からも、地域住民と気軽な交流が困難な点はあるが、保育園、小、中、高校の行事を見学に行ったり、市のふれあいサポートや推進会議に相談したり、また、建物の空いているスペースを行事に開放してみる等事業所と地域の交流の機会を増やしていく事を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議では、実際の事例を話すなどして(個人情報除く)、認知症の理解や支援の方法を伝えるようにしております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、行事の報告、予定、防災訓練や、感染症対策などを話して、サービスの向上につとめております。	2か月に1回開催している。事業所より行事・予定・防災等諸々の報告をするが、出席者からの意見やアドバイスは少ない。家族は事業所から依頼した代表が出席している。会議後は、市の担当課に報告書を届けている。	事業所の問題点や悩みなど率直に報告したり、アドバイスを受ける事により、真に地域に根ざした事業所となり信頼も厚くなると思われる。また、災害時に地域の協力も得られる。運営推進会議を有効に生かす事を今後期待したい。また、運営推進会議録は、全家族、全職員に報告する事を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	議事録の提出は、直接手渡しにゆき、顔の見えるおつきあいを、目指しております。	運営推進会議の報告書を担当課に手渡しで提出している。甲府市からの介護相談員やふれあいサポーターの訪問も受けている。地域包括支援センター主催の研修会へも参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の開始以来、身体拘束は行っておりません。	法人内に身体拘束廃止委員会があり、年6回の会議や研修を行っている。職員は、身体拘束禁止をよく理解し支援している。玄関は、夜間のみ鍵をかけている。日中は、鈴の音にて利用者の意向に沿って対応している。緊急時などでスピーチロックが出た時は、職員同士で注意し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の甲府事業所、定期研修において虐待防止の研修を行っております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一昨年前は研修を行っています。今年は処遇会議の一環として行う予定です。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はお時間をいただき、よく検討していただけるように努めております。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議のご家族代表の意見を、伺う、外部評価のアンケートを記入するなどにつとめております。	運営推進会議に出席の家族から意見を聞いたり、家族の面会時には、職員から利用者の生活状況を話して意見を出し易い雰囲気作りに努めている。家族からの意見や要望は少ない。今後も気軽に意見や要望が出せるよう努めていく。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の処遇会議で意見を聞き、話し合いにつとめております。	月1回の処遇会議や、朝礼時、昼食後の記録時に意見を出している。必要な物品の購入、レクリエーション内容の提案があり、車いすの滑り止めを使用したり、夏場はシーツをタオルケットに換えるなど職員からの意見をケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の甲府事業所会議の他、会議録などに目を通して、職場環境、条件の整備につとめております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定期研修、倫理法人会への参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターなどの研修への参加を許可し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所、契約の際に懇切丁寧にお話を伺います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回、面談や契約、アセスメントの際に懇切丁寧にお話を伺っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	足腰を丈夫にして、転ばないようにとの願いを受け止め、外部の通所リハビリなどの検討も行います、		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事参加や、歳時のことなど、言葉を投げかけ、暮らしをともにする雰囲気作りを心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	様々な事情のあるご家族様のニーズを受け止め、敬老会 への参加など、共に支える雰囲気作りにつとめております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	解放的な事業所の雰囲気作りにつとめ、面会などの機会 ができるようにつとめております。	面会者には、お茶を出すなど気軽に訪ねてもらえるよう気配 りをしている。贈り物が届いた時は、利用者自身にお礼の電 話をしてもらうなどして今までの関係が途切れない様な支援 をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	仲の良い利用者様同士の席を配慮するなど、言葉かけす るなど、配慮に努めております。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真データを送るなど、退所後のフォローもつとめており ます。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	外出の希望もあり、週末に買い出しを行い、希望者は同行 できるように展開を促しております。	思いの表出困難な利用者は、その表情や動きから把握して いる。職員間の情報交換で本人の希望や思いをくみ取って いる。外に出たいとか買い物に行きたい等の希望がある。 週末には、近くのスーパーに出掛けるなど、散歩の希望に 職員が同行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	お話を傾聴し、仕事や生活歴を伺い、添うようにつとめて おります。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	管理者も現場の仕事に介入し、一人一人の過ごし方。心 身の状態などの把握に努めております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人とは会話コミュニケーションの中で、職員とは会議の 中で、ご家族とは面会した際にお話を伺い、現状に即した 計画作りにつとめております。	利用開始時は、家族、本人と面談し暫定プランを作成する。 日々の申し送りノートや管理者からの指示で統一した支援 に努めている。3か月に1度のモニタリングでプランの修正を している。また、大きく状態が変化した時は、随時計画を修 正している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアノートに日々の記録を綴り、時おり確認して計画の参 考にしております。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応や、ご家族の自宅へ同行するなど、個別のニーズに対応できるようにつとめております。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	甲府の昔の事や現在を回想したり、塗り絵や、ぼた餅作りなど本人の力が発揮できるものを探し、豊かな暮らしを楽しめるようにつとめております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を希望されるご家族には、受診の際、生活の様子をお手紙に書いたり、バイタル表のコピーを持っていただくなどの配慮につとめております。	1名が事業所からの情報を持参して家族と共に、以前からのかかりつけ医を受診している。他の利用者は、特養の利用者と共に職員が付き添い、法人の医療施設で定期受診している。受診結果は、申し送りノートに記録して職員で共有し、利用者の家族には、受診後に資料と受診報告書を郵送している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回来る看護師が職員の相談を受けられるように、ゆとりを心がけております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	折ある事に地域の病院へ挨拶へ伺っております。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院などの可能性が出てきた場合、ご家族に入院の可能性と、対応などを相談させていただいております。	低体温、低血圧、反応の低下など常時医療的処置が必要になった時は、家族に報告し、家族の希望を聞いて方向性を決めている。法人内の療養病床についても説明している。現在は、看取りケアを、行っていないが、今後は法人内の連携や協力も得られる為検討していく予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、赤十字職員の緊急時対応の研修を法人の内部研修として行っております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練と、法人内部研修にて消火訓練を年一回行っております。	夜間想定も含めて年3回消火や避難の訓練を行っている。事業所間の連携や連絡網も作られている。近々に地域ネットワーク会議が設立される予定であり、事業所の管理者もメンバーとして推挙されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、あだ名で呼ばないように、「○○さんですか？」等一方的な意見は控えるようにつとめております。	利用者と呼ぶ時は、「○○さん」と柔らかい口調で声をかけている。トイレ誘導時は、周りの人に配慮してそっと声をかけている。入浴は、同性介護を目指している。書類は書類保管庫に管理している。職員は、守秘義務についてよく理解している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「○○しますか?」「○○しましょう」など、自己決定を促す言葉かけにつとめております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂に入りませんか、集団体操へ行きませんか、など声かけで、本人の意志が引き出せるようにつとめております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際に「これにしましょう」等、自立意志が引き出せるようにつとめております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から回想を促したり、食後のお皿拭きを手伝ってもらったりしております。	併設の特別養護老人ホームの栄養士がメニューを作成している。副食は、特養から届けられ事業所で盛り付けをしている。年々利用者の介護度が上がり現在全介助で食事をしている利用者もいる。食後の皿拭きには、1名の利用者が参加している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分ゼリーや、スポーツドリンクを個別に買う、ミルクティーを買うなどして工夫しております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、できない人には適宜介助するなど行っております。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは自己負担となるため、できる範囲で節約する。しかしながら清潔に、自立できるようにつとめております。	心身共に重度化している現状の中でも、時間を決めてのトイレ誘導ときめ細かな支援により、昼夜オムツの使用の利用者はいない。職員の温かな支援が伺える。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ブルーンを購入し、10時のおやつに提供するなど、おこなっています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所内のユニットバスを利用し、気軽に入浴できるように工夫しております。	入浴は週2回である。身体的に重度な利用者は、併設の特養の機械浴で入浴出来る。入浴を拒否する利用者には、相性の良い職員が対応したり、「薬を塗りましょう」などと誘導したりと工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	座ったまま傾眠される利用者様には短時間でも臥床していただけるように工夫しております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて確認し、看護師ともいつでも相談できるように心がけております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や刺繍、ぬり絵など、個々の嗜好にあったサービス提供につとめております。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニが徒歩の距離にできたので、希望者は同行することが可能です。「一度、両国国技館へ行ってみたい」とのお話ありましたが、ご家族へさりげなく伝えております。	週末には、近くのコンビニまで買い物に外出する。季節に応じ、桜の花見、新緑、紅葉狩り等の外出をしている。利用者から行きたい所の希望が出た場合は、家族対応が良いと思われる時は家族に伝えるなどの外出支援を心がけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はおこずかいを事業所で管理しております。今後希望者があれば、可能な範囲で使用してもらおうと考えております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	先日、差し入れがあったので息子へ連絡して欲しい、との話があり、本人はでなくて良い様子であったので、職員が連絡させていただいております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適宜のれんを設置、テーブルの位置など、住みよい居住空間につとめております。	広い食堂は、真ん中に2か所食事用のテーブルが設置され、隣に作業等に使われる広めの共用の居間がある。その周りが利用者の居室となっている。フロアの壁には習字、写真、手作りの手芸作品、季節に応じた塗り絵などが飾られている。窓際に観葉植物が置かれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い者同士が近くのテーブルへ座るなどの工夫につとめております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの風が当たるので、ベッドの場所を工夫するなど行っております。	ベッド、エアコン、ハンガー掛け以外は、自由に持ち込み出来る。衣装箆笥、机、テレビなどを置いたり、壁には家族や思い出の写真などを飾るなど自分らしい部屋作りが出来ている。窓からは厄地藏さんを見下ろせたり、周囲の街並みが見渡せる。居室の入口には職員手作りの表札が掛けられている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リハビリ(車イスの自走)が必要な方は距離のある部屋。トイレの近くの部屋など工夫しております。			